

日本鑄鍛鋼業界の将来ビジョン

1. 技術・技能の向上
2. 需要家との共存・共栄
3. 人材確保と業界のPR
4. 海外展開
5. 安全・環境・地球環境

1-1 技術・技能の向上

【問題点】

- (1) 長年に亘る不況で 設備の老朽化が進み、競争力も低下している。
- (2) 技術開発資金が不足している。
開発費が回収できない。
- (3) 適当な開発テーマがない。
(鋳鍛鋼業界の成熟。国家的プロジェクト不足。)
- (4) 海外への技術・技術者の流出が増加している。

1-2 技術・技能の向上

【あるべき姿】

- (1) オンライン・ナンバーワン技術の確立
- (2) 追隨を許さぬ Q.C.D による差別化
- (3) 顧客ニーズの適確な把握と提案型事業推進
- (4) 得意分野に特化した技術開発
- (5) 現場ものづくり技術の更なる高度化
- (6) 技術流出防止のための法的措置

2-1 需要家との共存・共栄

【問題点】

- (1) 製造過程における付加価値が価格に反映されていない。
(円/kgの考え方、品質よりもコスト優先)
- (2) 不公正な商習慣。(金型費、支払条件 等)
- (3) 知的財産面でも不利な事が多い。
- (4) 顧客に比べ 中小企業が多く、発言力も小さい。

2-2 需要家との共存・共栄

【あるべき姿】

- (1) 付加価値の適正評価と価格体系の適正化。
- (2) 政府がドライン策定のための具体案作成。
- (3) 知的財産の保護体制の確立。
- (4) 需要家との交流による相互理解活動。

3-1 人材確保と業界のPR

【問題点】

- (1) 学生・一般者が金属系産業に関心がない。
大学での学科・講座が少ない。
- (2) 長期間採用して来なかったもので、学校との関係がうすくなっている。
- (3) 優秀な人材不足で技術・技能の伝承が進んでいない。
- (4) 業界あげてのPR活動が不足している。

3-2 人材確保と業界のPR

【あるべき姿】

- (1) 学校、学界との関係を強化。学界活動の奨励。
- (2) 熟練技能者の社会的評価方法見直し。
- (3) ものづくり大賞等各種イベント開催。(含予算措置)

4-1 海外展開

【問題点】

- (1) 海外進出には興味はあっても情報が不足している。
- (2) トラブル例も多く、リスクが大きい。
- (3) 技術流出の危険が大きい。
- (4) 投資額の負担が大きい。

4-2 海外展開

【あるべき姿】

- (1) 海外同業者の実態把握。
- (2) 技術流出防止策の構築。
- (3) 業界としての共同海外出資や政府団体の支援。

5-1 安全・環境・地球環境

【問題点】

- (1) 安全成績が悪化傾向にある。
- (2) 3K職場の改善もさらに一段の努力が必要である。
- (3) 地球環境、特にCO₂問題で日本は不公平を強いられている。

5-2 安全・環境・地球環境

【あるべき姿】

- (1) 安全・環境対策起業に政府の支援。
- (2) 機械化・自動化の更なる推進による 3K脱却。
- (3) CO₂問題では不公平の是正を言い続ける。